

I、私の短期的視点、長期的視点

1. 林業の場合、長期的視点では、その成果はほとんど自らが確認できない。
2. 今享受している成果は、数十年前の人たちの仕事の成果である。
3. 数十年先の目標を建て、そこから実行計画を建てる。⇒スーパーロングバックキャスト
4. 現在の行為は流れの中の一点でしかない。過去の行為の補正も必要。
5. 成果の判断が可能になるのに時間がかかる。間違いを恐れなくて実行する。
6. リスク管理のために、過去の知見と科学的視点、現場の情報を十分に検討必要。
7. その時点での最善を尽くさないと、今までの先人の努力はその時に消え未来もない。
8. 「誰のために行うか」、「誰が行ってきたか」を考えず与えられた仕事として行う。
9. ビジネスとしてやっているというより、林業に携わった者として、与えられた仕事。

II、「稼ぎ」と「仕事」

1. 常に私が申し上げることに、働く中に「稼ぎ」と「仕事」の違いがある。
2. 「稼ぎ」は単にお金を入手する働き、「仕事」社会に良い影響を与える働きでお金の入手とは一線を画している。この二つが重なればまことに素晴らしいものになる。
3. 「仕事」としてのインセンティブはキリスト教の世界では宗教的個人犠牲でイスラム教で同じ、日本では共同体の意識。
4. 規模の大小はともかく共同体の中での活動は、人々に「仕事」のインセンティブを与えるのはお互いの評価が重要となってきます。その評価が伝わる限界が共同体の規模。
5. 現在のソーシャルメディアの発展は上記の規模を大きく、地域の限定がなくなる。

III、行政職の重要な視点

1. 行政職員はどうしても、眼目前の仕事をこなすことに忙殺されている。
2. 常に自分の担当している事業が大きな計画、例えば「みえ県民力ビジョン」のどこに位置するかを意識しておくことが重要です。
3. 判断を必要とするときは、その結果が上位計画のどこを変えるかを十分に考えて、特にどの階層での判断かを意識しておく必要がある。
4. その上で国の計画、特に閣議決定された国家戦略的な計画を意識しておく必要がある。
5. 幹部は上下の影響を考えることが多いが、常に横串に事業を見る視点を忘れない。
6. 国際的な視点を忘れるとガラパゴス的な行政になりかねない。
7. それとともに県民のメリットとデメリットを意識しながら、コストを考えていく必要がある。
8. 特にコストを考えるときは、常にフレッシュな視点でコスト削減を検討する。

IV、行政の責任の取り方

1. 往々にして県民から過去の事業の判断の責任を問う発言はあるが、議会の存在を考えると法を犯さない、職務規程に反しない限り、自らが判断したことに対する責任を問われることはないはずだ。
2. それに対して、行政のシステムとして過去の政策を常に評価して、正否を考え、問題があれば、その原因を当時の判断を含めて、厳しく評価すべきであり、批判は不要だが、反省と改革が必要である。⇒どの時点で行うかが重要⇔現在の事業に反映できる時期
3. 過去の事業を判断する場合は、そのときの関係者が行政内部に在籍する場合は、負の評価、過去の判断のチェックが鈍る。⇒幹部の強い意志が常に表明されていないと鈍る。
4. PDCA を厳しく実行

V、透明性と説明責任

1. 透明性は決定過程や途中の議論を公開する事にある。透明性が必要だから出来ない事業はもともと行政の事業としては行うべきものでない。
2. 説明責任は、積極的に事業の必要性や内容を県民に判り易く理解してもらうための責任である。
3. 「透明性が必要だから、この事業は出来ない。」ということはありません、事業として行政がやるべきことであれば、反対が出そうでも積極的に説明して、必要性を理解させることが重要である。
4. 透明性と言う言葉が難しいことは実行しないと言う、行動を助長している可能性を知るべき。